高岡市文化財総合的把握モデル事業」



勝興寺本堂 (重要文化財)

高岡市教育委員会文化財課



回門印尼文人心空中悔芯 徐未 炒佩女	
項目	内 容
第 1部 高岡市の文化財 編	
序 章 はじめに	・構想策定の背景や目的、位置付けなど
第 1章 高岡市の概要	・社会環境、自然環境、施策の現状など
第 2章 高岡市の歴史と文化財	
・文化財の悉皆的調査	悉皆的調査の目的、手法、結果など
·歴史	
·文化財	
・歴史と文化財の特性	
第3章 文化財の総合的な把握	<u>関連文化財群及び歴史文化保存活用区</u>
・文化財の総合的な把握	<u>域</u> の考え方の提示
第 2部 保存 活用計画 編	
第 1章 総論	保存・活用に際しての基本理念や方針
第 2章 文化財の保存・活用方針	個別の文化財のみでなく 関連文化財群の
調査研究の充実	考え方も踏まえた上で、項目ごとに文化財の
適切な保存管理	保存・活用の方向性を提示
・周辺環境との一体的な保全	
・人材育成の継続 など	

項目	内 容
第3章 文化財の総合的な保存・活用	
第 1節 関連文化財群	
関連文化財群の設定	9つの関連文化財群の提案 (次頁参照)
·関連文化財群の保存 ·活用計 画の構成	·関連文化財群の保存・活用計画の構成を提示(関連性、価値、現状と課題、活用方向等)
関連文化財群の保存 活用計	·関連文化財群ごとに、保存・活用計画の骨
画の骨子	<u>組みを提示</u>
	詳細な計画は今後策定
第 2節 歴史文化保存 活用区域	
・区域の設定	4つの区域の提示
・区域の保存・活用の構成	·区域の現状や課題、特徴の把握。保存活用 の方針を提示
・区域の運用施策の骨子	・上記事項を踏まえた上で、考えうる運用施 策を提示
	詳細な計画は今後策定又は他計画へ反映
	(風致維持向上計画やその他公共事業計画 など)

• 関連文化財群(案)

- □商工業の町・高岡を支えた工芸文化と流通に関わる文化財群
- □ 高岡御車山祭と祭りを支える職人文化に関わる文化財群
- □高岡鋳物の生産技術と工芸品に関わる文化財群
- ■散居村の景観に関わる文化財群
- □菅と菅笠づくりに関わる文化財群
- □みなと町伏木の交流と物流に関わる文化財群
- □勝興寺と寺内町に関わる文化財群
- □信仰に関わる文化財群
- □越中国府に関わる文化財群



山町筋の街並み(商家群、御車山の舞台)

11. 関連文化財群の設定について

高間にみる前田氏のくにづくり

① 商工業の町・高岡の成立と繁栄に関わる文化財群

1. 概要

ストーリー

加賀二代藩主利長は、慶長14(1609)年高岡城を築城し、城下町を開町した。利長の死後、一国一城令が布告され廃城となった後は、 三代藩主利常により商工業都市への転換が図られ、様々な政策の実践により利長ゆかりの高岡は加賀藩の重要な商工業都市として成長 した。この成長の背景として、開町にあたって集まった職人達の技術の研鑚によって発展した工芸文化や、加賀藩の一大穀倉地帯となった 周辺地域と高岡城下町・木町・伏木等をつなぐ水道・陸路など、町内外を経横に結ぶように発達した流通・往来システムの存在があった。

近代以降は、薄政期の商工業都市としての基盤を引き継ぎ、効率的に都市の近代化が進行したことで、近代的商工業の繁栄がもたらされた。現在、この地で培われた工芸技術は、市の基幹産業として成長した技術の機となっている一方で、変わらずに高図の伝統産業としても息づいている。また、近世の面影を伝える歴史的な町並みや祭り等、高岡町独特の気温を伝える文化財が数多く残っている。

関連する文化財とその関連性・価値

構成文化計

- · 砺波平野、射水平野
- 高岡台地
- ・庄川、小矢部川、千保川等の河川
- ·歷史的街道
- (北陸道、戸出·中田往来、氷見街道 等)
- · 往還松 · 恵比寿塔
- ·木町文書
- ・旧城下町の街路、町割 高岡城跡古城公園の石垣、木町
- 旧城下町の町並み(山町筋、金屋町 等)
- 旧城下町の伝統的建造物
- -古城公園
- -用水
- ・中田、戸出、福岡、守護町の町並み (歴史的街道沿い)
- ・米島、吉久、守山の町並み、戸出御旅屋の門
- 伏木港(伏木浦)
- -みなとまちの町並み(伏木)
- ·高岡関野神社、五福町神明社本殿 大手町神明社拝殿
- 瑞龍寺
- 前田利長幕肝、繁久寺、八丁道
- ・前田家ゆかりの宝物
- 高岡御車山祭り、御車山
- 金工技術、漆工技術·高岡漆器 錦物技術·高図編器、仏壇
- 工芸品、古文書、書跡 等
- 旧城下町の町名

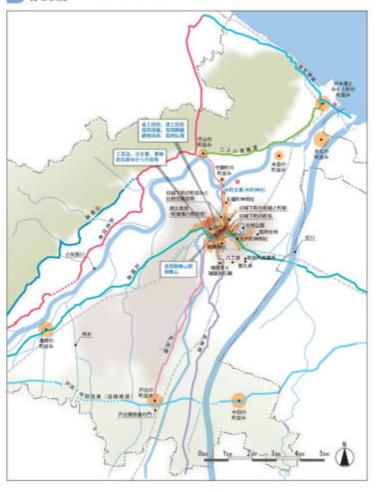
テーマとの関連性

- 獲の政策による生産性の向上はこの立地あってのことであり、加賀僧の一大穀倉地帯となった。
- 自然地形の良さから拡下町が営まれた。
- また水運は流通の中心であった。
- 陸運の中心であった。
- 藩政期、主要街道に植えられた松。
- 千保川最大の貨物集積地であった新幸橋にあり、夜間の荷物の上げ下ろしを照らす照明塔として 大正11年に建治。
- 利長が高岡城築城のため、資材を陸揚げする物資の集積地として木町の造成推進を推示したものなど、改通ルートの拠点であった木町に関する文書。
- 利長によって開助された高岡城下町に関わる文化財。 東工業の町に転換されてからもこの城下町をベースに、地形の利を活かして町は発展していったといえる。

高問城跡。

- 治水、灌漑用水として造られた。
- 藩政邦、御蔵等がおかれ米等豊産物の集散地や宿場町となっていた町。現在は、明治以降の町家等からなる歴史的な町並みが残っている。
- 北前船の中継地で、近世・近代に至るまで盛んに交易が行われ、現在の明治以降の町家等からなる歴 史的な町並みにもその陸盛を垣間見ることができる。
- 開町の相、前田利長を祀る。
- 利長の菩提寺として整備された。
- 兄・利長の冥福を祈り、遺憾をたたえるために利常によって造立された。
- 前田利常が兄利長の雲を慰めるため、命日のたびに寄進したもの等で、工芸品、絵画等。
- 高同間町に際し、前田利長が高岡町団に与えたのがはじまりと伝えられる。 影会・涼エ・栄養など高岡 の伝統工芸の粋を集めた豪華な装飾が描された御車山は商工業の町高岡の象徴ともいえる。
- 開町にあたって集まった職人は、商工業の町に転換してからもその技術によって町を支え、薪々と伝えられた技術は今でも伝統産業として裏間を支えている。
- 守山町、木舟町等旧城下町の地名が多く見られる。

分布状況



11. 保存·活用計画

大切にすべき価値は何か

■藩政期由来の商工業都市としての骨格を示す

前田利長・利常による都市の骨格の形成と流通システムの構築は、高岡が廃工業の町としての繁栄を続けた要因の一つであるといえる。高岡の中心地であり商工業都市として発展した高岡城下町や、流通・往来の拠点となった周辺部の集落、藩の財政を支えた穀倉地帯、これらの地域を結ぶ陸路・水路など、藩政期に築かれた都市の骨格は、その姿を変えながらも現代に確実に引き継がれている。これらの諸要素が、一つの文化財として価値をなしていることを認識し、今後も一体的に継承しその価値を示していく。

■高岡開町の祖・前田利長を敬う心を伝える

前田利長が治めた高岡城下町時代は短かったが、残された町人連に受け継がれた利長への畏敬の念は、現在も寺社や祭礼行事、 工芸品等。市域の人々の営みと生活空間に脈々と受け継がれている。また、次代利常によって建立された暗龍寺や利長墓所は、 高岡開町の祖である利長を偲ぶ心の象徴としてこの地に刻まれているものである。この精神性を本関連文化財群の根本的なテ ーマの一つとして位置付け、構成文化財の保存・活用にあたる。

■商工業都市の気風を受け継ぐ要素を守る

藩政期以来、商工業都市としてものづくりの文化を醸成してきた高間では、現在も銅器や漆器、金工技術等、優れた伝統工 芸技術が受け継がれており、人々の誇りの中には商工業都市の気風を垣間見ることができる。技術の幹を集めて生み出された様々 な作品群とともに、国内外との積極的な技術交流を経て製品の水準を高めてきた高関ならではのものづくりの気風を後世に伝 えていく。

選状と課題

■中心部と周辺集落の関係性と開発の進行について

本関連文化財群は、構成文化財が市域の広い範囲に分布している点が特徴的である。特に、旧城下町を中心として、かつての 流通の中継を担った集落が街道や河川を介して縦横に結ばれている様子は、藩政期以来の都市構造が目に見える形で示されてい る例である。これらの周辺集落には、現在も旧城下町同様多くの歴史的要素が残されているが、一方でその一体性を損なうよう な開発がルールの定まらないまま急速に進められつつある。各集落が持つ歴史的な特徴を踏まえ、快適な生活空間と歴史文化が 共生する方策を考えていく必要がある。

■高岡中心部の都市の一体性の回復について

本関連文化財群の核となる高関中心部の歴史的街区は、高関城跡(古城公園)が中心をなす旧城下町の区域から、理能寺・前田利長嘉所界限にかけての広がりを持つ。しかし、現在は道路や鉄道によって南北に分断されており、現状では藩政期に計画された都市空間として感じることが困難となっている。市民や来訪者に高関の歴史とその価値を分かりやすくを伝えるために、歴史的背景に基づく都市の一体性を何らかの方法で示すことが必要である。

■伝統工芸技術継承の連携体制の構築について

伝統工芸技術を継承し、後世に伝える試みは既に数多く行われているが、依然として後継者不足の問題は大きい。今後の課題 として、これらの技術を継承する人材を育成することに加え、育った人材が活躍できるフィールドを開拓していく試みが同時に 求められている。官・学・民による取り組みを一過性のものとせず、連携体制の強化を進め、高岡市全体が長期的に目指す取り 組みへと育てていくことが求められる。

どう守り育てるか

■学 ぶ

- ・市域に分布する集落に残された文化財が、その地域性や蓄破期時代に与えられた役割の違いにより異なる点に注目し、商工業と読通のストーリーに沿ったまちあるきと文化財マップの作成を市民とともに行う。
- ・伝統工芸技術を継承する人材育成を継続的に実施していく。工芸技術の君手を育てるための技術 講習会を継続して実施し、現在取り組んでいる様々な取り組みを通して、より多くの人々に伝統工芸 技術の価値と継承の意識を伝え、実践的な工芸技術に触れる機会づくりを行っていく。

■知らせる

- ・都市計画の一体性を醸し出す要素として、道や用水等、線的な文化財の活用に着目し、城下町の 計画と深く関わる街道や、波通ルートとして計画された街道の特徴や歴史性など、都市の計画性の 一端を体験しながら学んでもらう輪合を作る。
- ・伝統工芸技術の継承に関わる取り組みや発表の情報を、高同全体で共有できるような連携体制を 構築していく。(日々の生活や観光、イベント等高調の文化に触れるための情報が集まるボータルサイトの整備を進めていくことも検討する。)

■活かす

・構成文化財に挙げている歴史的建造物や町並みを、高調の商工業の歴史と特徴を分かりやすく伝える要素としてみなし、その連続性を損なわないような保存・活用を行う。

歴史文化保存・活用区域設定の考え方

設定の必要性

歴史的関連性だけでなく 地域 一体で文化的な空間を創出して いる地区については、景観事業 や都市整備事業などが実施され る際に、その文化的空間に相応 しいものが実施されるべきである ことから 区域を設定する。

設定の条件

・関連文化財群や個々の文化財 の集積度が高い地区

・地域一体で保護をしていくべき であると考えられる地区

歴史文化保存活用区域 Ⅲ

